

## 春季大会におけるスペシャル・セッションのご案内

秋季大会のスペシャル・セッション「地表面・大気相互作用」は、導入直後の試行という事情もあり、一般の口頭セッションと同一の条件で行われました。しかし講演企画委員会では、今後、スペシャルセッションの趣旨を生かせるよう呼びかけ人の自主性をできるだけ尊重していきたいと考えます。そのため、申し込みに関しては下記のように取り扱いますのでご了承下さい。

- 一般のプログラム編成（一般発表の締切の翌日＝64年3月10日）に先立って、スペシャル・セッションに申し込まれた研究発表を呼びかけ人に見てもらい、必要に応じてプログラムを調整する（従って、申込者と相談の上、発表の形式やセッションを振り替える場合もあり得る）。
- このため、スペシャル・セッションの申し込み締切日を一般発表よりも約1週間早める（3月1日）。
- 口頭発表の新方式（751ページ）による申込方法は、スペシャル・セッションにも適用する。

次の春季大会ではスペシャル・セッションとして下記の2つが計画されています。これらは、発表申込数にもよりますが、同時に（別会場で）並行して行われる予定です。またその内の「オゾン」はシンポジウムでも予定されているテーマですので、シンポジウムとスペシャル・セッションの議論がかみ合うよう、講演企画委員会としても可能な配慮をするつもりです。

なお、スペシャル・セッション向けのポスター発表も歓迎します。ただしこれは、一般のポスター発表と同様の扱いをしますので、締切も一般発表と同じです。

講演企画委員会

スペシャル・セッション：「陸面過程 (land surface process)」

趣旨：前回に引き続き、気候の形成・変動にかかわる地表面と大気との相互作用を考えていきたい。ただし、対象を陸面（雪氷面を含む）に関係するものにしよう。特に、今後の研究に向けて、「地表面と大気とのエネルギー・物質・運動量の交換を大規模モデルにとりこむためのパラメタ化をどのように進めるか」、「陸面過程

の理解を深めるためにはどのような観測計画が有効か」の二つの課題について討論したい。研究発表としてもこの二つの課題にかかわる話題提供を特に歓迎するが、そのほか、素過程の研究も、大規模（地方規模から全球まで）の現象論も、一堂に集まればよいと考えている。

呼びかけ人（暫定）：増田耕一（東大・理）、桑形恒男（東北大・理）

スペシャル・セッション：「オゾン」

サブテーマ：「オゾン・微量成分測定技術」、「物質循環」、「化学反応」、「対流圏オゾン」、「成層圏オゾン」、「南極オゾン」

趣旨：オゾンホールや温室効果など大気オゾンと微量成分に関わる大気の変動は、学界レベルだけでなく社会的にも注目と関心を注がれています。さらに、「オゾン層保護条約」締結が示すように、オゾン変動は世界的な環境問題の中心的課題になっております。

このような現状の下で、日本のいくつかの研究機関でも新たにオゾン研究がはじまっています。しかし、日本におけるオゾンに関する基礎研究の発展のためには、学界における中心的役割を日本気象学会が果たすことが求められている、と考えます。このような役割を果たす体制をより充実するために、オゾン研究の到達段階および問題点を明らかにすると同時に、研究者間の交流を行なう場が、今必要であると判断しています。また、この場が大気オゾン等の研究者層が増大していく契機にでもなれば、との期待も含まれています。

呼びかけ人：

小川 利紘：東京都文京区本郷 7-3-1

東京大学理学部 地球物理研究施設

川平 浩二：富山市本郷町 13

富山工業高等専門学校

牧野 行雄：つくば市長峰 1-1

気象研究所

林田佐智子：つくば市小野川 16-2

国立公害研究所